

新一万円札の「渋沢栄一」

関東支部 大久保 雅弘

遅まきながら晩秋の一日行つてきました埼玉県深谷市の生誕地 渋沢記念館へアンドロイド（擬似人間ロボット）が語る近代日本経済の父は矢張り凄かった。なんせ600カ所の公共施設と500の企業を設立運営したのだから。

1. 実業家への出発点

江戸時代の末期 1840年（天保11年）深谷市の農家に生まれ家業の繭玉（藍染に使用する藍の葉）の生産を通じて父親から勤勉さや人へ思いやりを学び、母親からは慈悲深い心を学びまた、従弟からは「論語」や学問を学びながら徐々に尊王攘夷思想の影響を受けました。

2. 倒幕から幕臣へ

23歳の頃、幕藩体制の矛盾に疑問を抱いて企てた群馬県高崎城の乗っ取りと横浜外国商館を焼き討ちする拳銃計画が中止になると郷里を出奔し、その後、京都からツ橋家（徳川慶喜）に任官して農兵の募集や新規事業の運営による財政改革などに取り組み次第に幕府内で頭角を表していきます。

3. ヨーロッパでの体験

1867年（慶應3年）パリ万博の使節団に随行して庶務、会計係として渡欧すると「ちょんまげ」を切り洋装姿に変身して議会、取引所、銀行、会社、工場、病院、上下水道などを視察しヨーロッパの進んだ社会制度や思想、文化、人間平等主義などを見分して約1年半の滞在で多くの影響を受けました。

4. 官界から実業界へ

1869年（明治2年）に明治政府に任官し海外で得た知識や体験を近代化に必要な制度として取り入れるや否や第一国立銀行を設立し500の企業を設立（国鉄、郵便局・みずほ銀行、王子製紙、東京ガス、帝国ホテル）他に殖産興業を進める明治政府は1870年（明治3年）貿易による外貨獲得のために模範的な洋式製糸工場の建設を計画し群馬県富岡市に富岡製糸工場（世界遺産登録）も設立、運営に関わりました。

5. 慈悲のこころ、社会福祉活動

また医療施設の整備にも情熱を注ぎ東京慈恵医院、聖路加国際病院、日本結核予



防協会など約600カ所の社会公共事業や教育に携わり一橋大学、日本女子大学などの設立や運営に関わりました。

6. 国際親善にも尽力

日米関係の悪化時には人形による日米友好親善として1927年（昭和2年）アメリカから13,000体の「青い目の人形」を受入れ全国に配置して「日本人形」とのエール交換をなど1931年（昭和6年）の亡くなるまで大きな国際親善の役割を果しました。

“彼の信条”は孔子の教え「道徳に基づいた経済（利益）との合一制」に根幹がありました。

“皆が慕っているあなたの姿を求めて、なかなか集まりません。”

“名産品「煮ぼうとう」八衛門（0495-24-3988）は忘れようとしても忘れられない味です。”

2025年10月24日